

第8回（平成19年度第3回）ごみゼロプラン推進委員会

日時：平成20年3月24日（月）13：00～15：00

場所：プラザ洞津 3階 紅葉の間

（司会）

開会

（大林総括室長）

開会あいさつ

（司会）

ここから議事の進行を広瀬委員長にお願いしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（広瀬委員長）

早速ですが、委員の皆さんには、今年度の取組の状況についてと、それから20年度の計画について、議事に入っていきたいと思います。

まず最初に、19年度のごみゼロプラン推進の取り組み状況について、事項書がお手元にあると思いますが、その中の（1）のモデル事業の取組状況、それから（2）の市町ごみ処理システム最適化、廃棄物会計ですね。それから（3）ごみゼロセミナー、地域交流会等の開催状況、それぞれ続けてこの（1）～（3）について、まず事務局のほうから説明をいただきたいと思います。

（事務局）

資料1、資料2、資料3 説明

（広瀬委員長）

それでは、資料の1、2、3について、ご質問、ご意見がありましたらどうぞ。

（金谷委員）

資料2の10、11、12ページのごみ処理カルテのことなんですが、これは各市町で作って、自分のところの参考にして欲しいという意味合いなんですか。それとも、県で作ることなんですか。

（事務局）

このごみ処理カルテにつきましては、県内の市町全体分を県で作りまして、最終的には県として各市町の強み、弱みを全体として把握したいという意図で、今、フォーマットを考えているという状況です。

(金谷委員)

じゃあ、データを市町から出してもらって、県で取りまとめて、市町と共有すると。

(事務局)

そうですね、最後はそうなります。

(金谷委員)

これは意義深いことだと思うんですが、もし可能であればということで何点か。

この案でみると、11番目のスライドのところでは、総括表に含まれるかも知れないんですが、各市町で課題と言うか、それも長期課題と短期課題があると思うんですよ。どんなことで困っているとか、そういうことをかなり率直に書いてもらおうと参考になると思うんです。

あとは、12ページのフォーマットなんですけど、一つは、これはどこまで書くかによって切りがない部分があるんですけど、上のごみ処理のところの分別区分と、下のごみ種類別原価の区分が違っているので、これは合わせたほうがいいと思うんですね。ですから、右下のほうに合わせたほうがいいと思うんですけども。

それから手数料、右上のごみ処理のところには手数料があるんですが、いわゆる有料化の料金のことですが、これももし可能であれば、有料化の時は方式が三つあるので、大部分は従量制ですけども、その場合はいいんですけども、超過量方式とか二段階というものもあるので、その場合にはその情報が要ると思うんですよ。二段階であればそれぞれどこからの単価がどうだとか、超過量ならどこまでは無料とか、そういうものがやっぱり情報としてあったほうがいいと思います。

あと、これはちょっと細かい情報になるかも知れないので無理かも知れませんが、有料化について言うとセーフティネットと言うか、どういうところを免除しているかという、たとえば乳幼児のオムツとか要介護の人は免除しているとか、あとは経済的弱者の人は外しているとか、そこについての情報もあったほうが、見る上ではこれから参考になるだろうと思います。そこは詳しく言うと切りがない部分があるんですが、何かキーワードはあってもいいかなと思います。

あとは、資料2の5、6ページあたりの廃棄物会計のことで、基本的なところですが、現実のところ、市町の担当の人にとってはどういうメリットがあるのかなという部分を、実際にやってこられた方から具体的なことがもし出してもらえたら良いのかなと。だから、現場の直接的なメリットということではなくて、行政としての責任としてやるものと割

り切ってやるのか、それとも現場の担当の人にとっても、いろんな形で非常にプラスになるからやるのか、後者であればより励みになるような気がするんですが。

これをやることの意義付けが若干、実際にやっている人にとっても今ひとつピンとこない部分があるんじゃないかと思うので、そのあたりをどう位置付けるのかということについて、施策の展開などの点でこういうところがうまくいったとか議論がしやすくなったとか、可能であれば、県内の事例でなくてもいいですけど、情報提供があるといいんじゃないかなと思います。

(広瀬委員長)

今の点について何か答えられますか。

(事務局)

まず、1点目の課題を書いていただくべきではないかというお話ですけれども、まさに我々も市町さんの困っておられるところを把握させていただいて、そこに支援できるものがあれば支援させていただきたいという考え方で作っております。ただ、どこまで書いていただけるかという問題はありますが、なるべく課題を把握させていただいて、最後、出せる範囲で出させていただくということで考えさせていただきたいと思います。

それと、記入項目を合わせるでありますとか、手数料のところをもう少し充実させるべきではないかというところについては、フォーマットを考えさせていただいて、より詳しく書かせていただきたいと思います。

また、先生がおっしゃられるように、セーフティネットの部分で、4月から名張市と伊賀市の一部で有料化するところでも、オムツでありますとか、草木の剪定されたものなどを入れる袋については無料にするとか、いろんな取り組みをされていまして、他のところでもそういった情報を欲しいと言われているところがありますので、ぜひ入れさせていただきたいなと思っております。

それから、廃棄物会計でございますが、実際、市町の担当者にとってどういうプラスがあるのかというのは、確かにこれからお示ししていかないと、事務量が増える中で、何のためにやるのかという意見が出かねないと思っております。

今、いろいろお話を伺って考えておりますのは、一つは行政の責任として情報公開の中で作っていかないといけないんじゃないかというのがありますとともに、各市町の担当者の方からは、やっぱり他市町との比較ができないとなかなか生かしきれないとお声があります。他の市町がどういう状況にあって、類似の団体がどういう状況でというのが分か

りませんと、「うちはどうなの？」という比較ができないと。比較ができるとよりメリットがあるのではないかというご意見もいただいておりますので、まずは県内で参加いただくところを広げておりますけれども、参加市町数が広がってきた段階で、どういう形で各市町に比較も含めて使っていただけるかというのは、検討させていただきたいと思っております。以上でございます。

(広瀬委員長)

他にいかがですか。

今ちょうど廃棄物会計、それからこのカルテの話が出ていますが、それについて何かご質問、ご意見はございませんでしょうか。

これは資料を見せていただいて非常におもしろかったんですが、どうしても字や図が小さくて見えない部分がありまして、例えば 11 ページのところ、多分これはいろんな市町を比較するための資料だと思って、グラフがいろいろありますが、真ん中、これ、指標が 10 あるんですね。でも、どれなのか分からないんですが、これはどういう基準なんですか。

実は、先週、仙台に行きましたら、仙台市がやはり廃棄物会計でこれをやっています、報告が出ていましたので、その時にやはり収集料がかなりかかっているということと、ただ、周辺の市町村と比較してみると、必ずしも特に高いわけではないと。多分これからそういうふうな形で使われていくんじゃないかなと思います。

いかがですか、さっきの 11 ページのグラフ。

(事務局)

上からご説明申し上げます。非常に小さくなっており、申し訳ございません。

まず一番上が人口 1 人当たりのごみ総排出量のデータで比較をするという部分です。次に右回りでご説明しますと、基本的には、レーダーチャートというふうな形になっておりまして、赤いラインを平均値とか標準値だというふうに見てください。そこからそれぞれの項目に対して、外へ行くほうが取り組みが進んでいる、内側に行くほど取り組みが遅れていくというふうな形で見ていただくことになるかと思えます。

先ほど申しましたように、まずはじめに 1 人 1 日当たりのごみ排出量、ごみ基本データのところがございまして、以後、資源回収率であるとかエネルギー回収率であるとか、そういった数値が出てきまして、で、ここの全体の左側に位置するものについては、コスト情報のものがあります。

廃棄物会計自体、基本的にはコストだけしか見られないものですから、市町村のごみ処理システムというのはいろいろな面、多面的な面からシステムというのは評価すべきということで、こういった形で見れば、それぞれ同じ点で比較することによって、それぞれの市町の強みと弱み、特に分別など進んでいるとか、また住民さんの満足度が高いとか、こういったところはそこの市町の強みとして、より伸ばしていくという形で情報共有できるのかなと。また、1人当たりのごみ処理量が多いところについては、ここをポイント的にターゲットとして施策を打っていったらどうなのか、ということが視覚的に分かって、県と市町さんが同じレベルで情報が共有できて、より効率的なシステムにして行くためには、こういう形でいこうじゃないかという話ができるのかなと思っています。

(広瀬委員長)

他に何かありますか。

先ほどのお話で、伊勢市のレジ袋有料化の導入の例だったんですが、今年度、桑名市、名張市、亀山ですか、来年度ですか。

(事務局)

来年度の予定で今進めておられると。で、ちょっと具体的に申し上げますと、桑名市が周りの、いなべ市ですとか木曾岬町、東員町、いわゆる桑員地区と呼ばれている2市2町で、今年の夏を目処にレジ袋の有料化に向けて議論を開始されているという状況でございます。また、名張市も、今年7月から開始をしたいということで、今、協議を進められております。それから、鈴鹿市と亀山市は隣接されていますので、一緒に共同歩調で、今年9月を目処に開始をしたいというようなご意向をお持ちだということで、今伺っておりますし、このほか、まだオープンになっていませんが、検討をされているところも他にもいくつかあると伺っておるところでございます。

前回、高屋委員から、伊勢市がされたので鳥羽市とか志摩市もというお話で、鳥羽、志摩にもお声掛けをさせていただいて、検討を始めさせていただきますということで、ご返事もいただいております。

(高屋委員)

実際に鳥羽市は、多分もう来年度検討を始めていくと思うんですが、この志摩市に関しては、私は資料3の4ページを見て、各市町からの意見というところのレジ袋有料化についてのところで、「RDFのカロリーを上げるのにレジ袋など・・・」と書いてあります。こうなってくると、ダメなのかなと思ったりもするのですが。

(事務局)

志摩市は、R D F 処理を行っているのは旧浜島町だけですので、全体がR D F 化しているというわけではないというのが一つあります。あと、確かにそのR D F のカロリーがビニールが入ると上がるということもありますけど、桑名広域なんかはビニールを別にしてR D F を作られたりしていますので、それを入れなきゃいけないということはありません。入れている側としてはこういうこともあるのではないかと、ということで、ご意見をいただいています。

(高屋副委員長)

その意識の違いと言うか、結局、鳥羽市と志摩市と南伊勢町で、広域でこれから大きな組織とか、広域で焼却炉を造っていくという時に、こういう考えの違いというのはものすごく足を引っ張り合うということになりますので、そのところ、市町がすべきなのか、県がすべきなのか、勿論住民もしますけど、その役割というのがどうなっているのか、隣の鳥羽市が「それは止めてください」とは言えませんし、すごく困っています。

(事務局)

分別が各市町で違うので、例えば県で統一したらどうかとか、そういったご意見も伺うんですが、基本的にはやはり各市町で、その分別した後の処理先も含めて体制を構築していただくということですので、県のほうでなかなか言いがたい部分というのはございます。

ただ、おっしゃられた鳥羽市とか志摩市、あと南伊勢町などは、一緒に広域的にごみ処理をやられていますので、その中で当然お話し合いがあって、必要な統一というのはされるんだろうと思います。最終的には協議で決めていただくしかないところがございますが、県としても、支援させていただけるのであれば、当然支援はさせていただきたいと思っています。

(広瀬委員長)

モデル事業で伊勢市が始めて、それが複数の市町で取り組もうということになると、ぜひ三重県全域で早い時期に取り組まれますと、『ごみゼロプラン』の一つの成果にもなりますし、推進力にもなると思いますので、ぜひよろしくをお願いします。

これはもうモデル事業として何か指定するという事はないんですか。レジ袋の有料化の取り組みについては、もうそれぞれやられているから。

(事務局)

モデル事業として特にレジ袋有料化のテーマを指定をするわけではございません。ただ、

それぞれの協議で、県のほうからも人の派遣をして、協議に入れということであれば、喜んで行かせていただいていますし、伊勢市とまた違う、何らかの特徴があるような、新しい形でやるということであれば、改めてモデル事業とさせていただくこともあり得ると思います。

(広瀬委員長)

いかがでしょうか。他に何か、資料1、2、3でございましたらお願いします。

前回、廃棄物会計がよく分からないからということで、今回は詳しく説明していただきましたし、皆さん、委員の方はよく分かっていただいたかと思いますが、まだちょっとよく分からないというところがありましたら、いろいろ質問していただきましたら、また資料を作っていただきますので、どうもありがとうございました。

よろしいでしょうか。

それでは、資料1、2、3の平成19年度の取り組み状況については一応これまでとさせていただきます。

引き続きまして、(4)の県民意識調査について、概要がまとまりましたので、資料4のほうの説明をお願いいたします。

(事務局)

資料4説明

(広瀬委員長)

それでは、資料4の県民意識調査について、ご意見、ご質問がありましたら。

(金谷委員)

こういった調査は非常に意義深いと思うんですが、この次やる時に参考になればという意味で申し上げたいのは、4、5ページ、比べた時に、4ページでは青と赤を合わせると大部分が賛成だと。で、5ページのほうで料金を聞いた時の結果なんですが、非常にギャップがあるという気がするんですね。どういうことかと言うと、今度やられる時には、この聞き方として、多少客観的な情報提供が必要だと思うんですよ。というのは、いくら負担しますかと聞かれても、前提条件が分からないと、答えにくいと思うんですよ。前提条件とは何かと言うと、一つは、有料化の袋の料金というのは、概ね45リットルだったら10円ぐらいが袋代原価なんです。そのことと、あとは45リットルのひと袋のごみを処理するのに実際にいくらかかったのかですね。ですから、自治体によって違うでしょうけれども、県内のおおまかな平均で150円とかそれぐらいだと思うんですね。そうすると、そ

のくらいかかっている中でいくらぐらいなら負担してもいいと思うか、あるいは何割ぐらいなら OK かという聞き方をしないと、分からないんじゃないかなという気がするんです。

ですから、その二つですね。袋代のことと、それからごみ処理にいくらかかっているのか、その情報を出した上で聞かないと、答えるほうは答えにくいという気がするんですね。そこは次に聞く時には情報を追加したほうがいいんじゃないかなと思います。

(広瀬委員長)

ありがとうございました。

要は、やっぱりそれぞれやっている市町村のお金を参考にして今度は聞かないと、これから先、有料化を進めていこうという時に、このままでは使いにくいということですね。

他に何かありましたら。

私もこれを見せていただいて、市民参加のモデル事業を行った市町で、意識が高くないんですよね。どうしてかなと私も考えていたんですが、どういう場合にこの住民参加が必要だというふうに考えるかと言うと、それは一般的には、やっぱり行政の施策についての信頼と言うか、信用度が低いような時は、住民はやっぱり行政に任せておけないから、住民も参加しないといけないんだということはあるそうなんです。

これを見ると市民参加があまり高くなっていない。前回よりも低くなっているのはこれは誤差内、多分平成 16 年と 19 年は多分の誤差の範囲ぐらいだと思うんですが、モデル事業をやられた東員町、桑名市で高くないというのは、ある意味で、やったからもっと市民参加が必要だというよりは、やった結果と、それからそれまでの仕事を比べれば、行政に任せておいてもいいかも知れないということかも知れませんね。そのへん、ちょっと私も見ていて、どう解釈していいのかわからなかったんですが、そういう可能性はあります。

いかがでしょうか。

それから、11 ページの住民参加のところ、吹き出しを出していますよね、モデル事業を。13 ページのところも、レジ袋有料化は今説明していただいたように、伊勢市がレジ袋の有料化に取り組んでいるわけですから、吹き出しを付けておけば分かりやすいと思います。

それ以外にいかがでしょうか。

3 ページ目の「ごみゼロ社会実現プランの認知率が、短期目標が 90%、9 割なんです、実績値が 45%で依然として低いんですが、これはどういうふうに上げていこうと考えておられますか。委員の皆さんに聞いたほうがいいのかな。

(事務局)

それについてはぜひお知恵もいただきたいというところでございますが、後ほど出てまいります。キャラクターのゼロ吉を作りましたので、それを活用して広く普及啓発というのを来年度以降もやっていきたいと思っております。

子どもさんに対してはそういう形なんです。大人の皆さんに対してはどう普及啓発するかというのは、地道にやっていくというところはあるんですが、それ以外の部分でもアイデアがあれば教えていただけるとありがたいなと思っております。

(広瀬委員長)

今までの取り組み、あるいはモデル事業というのは、どちらかと言うと、生ごみの堆肥化であるとか、資源リサイクルのステーションであるとか、住民参加の計画づくりであるとかというのは、やはり限られた人が対象ですよ。でも、今回の伊勢市のようなレジ袋の有料化はすべての住民の方に関係がありますので、多分こういう取り組みが増えて行けば、それに合わせてこのゼロ吉君などを提示していくことで、多分ごみゼロプランの認知率は上がるんじゃないかなと期待しているんですが、ですから、来年か再来年ぐらいにはかなり上がってくれるんじゃないかなという気がしています。

皆さん、他にこうやれば認知率が上がるよというアイデアがありましたら、ぜひお知恵を拝借したいと思います。

(服部委員)

知名度を上げるというお話ですが、いろんなイベントも打っていただいていますし、この『ごみゼロプラン』も作っていただいて配布していただいていますよね。それで少しずつですが成果が上がっていると思うんですね。

私、ちょっと思ったのが、この間もある方と話をしていたんですが、例えばこれはこれで計画は立派ですし、やられている事業も効果的かなと思うんですが、例えば簡単にA4のコピー用紙1枚でいいので、この表裏に本当に今年の重点項目はこれだぞという部分を、この間のゼロ吉君を交えた何かの形で、例えば、学校での保護者のかたの集まりであるとか、セミナーのような講演会なんかでも集まっていたりする中で、見せていくと。

例えば自治会単位で回らせてもらったりとか、例えば市町村の方が、それを利用してもらってそれを配ったりとか、そういう形のものができるよいいのではと。

冊子になると読んでいただけない。それで反対にチラシ程度のものであれば、新聞のチラシでも置いてあれば私たちも情報が入ってくる可能性がありますので、小学校ベースで配るのがいいのか、地域のリーダーさんに配るのがいいのか、市町村ベースで配るのがいい

のか、それは分かりませんが、何かの形でそういうツールがあると、もう少しこの認知度が上がりやすくなるんじゃないかなと、そういうふうには思ったんですけど。

(広瀬委員長)

ありがとうございます。いかがでしょうか、そのあたり。

(事務局)

確かに、プランの普及版にしても、結局冊子の形になってしまいますので、表裏1枚ぐらいで、パッと見ていただけるような啓発グッズも考えさせていただきたいと思います。

(金谷委員)

今の意見に賛成で、結構効果があると思うんです、いろんなやり方の中で。その場合に、どう配布するかなんですが、ひとつ、小学校4年生が清掃センターに授業で行きますよね。ですから、あの時に学校経由なのか、市町村の清掃センターのほうに置いておくのか分かりませんが、どちらかの形で配布するというのは結構効果的だと思います。子ども経由で親に渡すというのは。

もう一つは、各市町のほうでだいたい広報紙を出していますから、年に1回でも、そこに挟んでもらうのは可能なのかどうか分かりませんが、それから各事業者さんのほうにも、何かと一緒に渡すとか、郵送とか、そういうふうな手立てがあるのではと思います。

それで20年度の予算が決まっていて無理でしょうけれども、21年度についてはそのへんでどの程度枚数が必要かと関係してくるでしょうが、やっぱり「1枚」ものとするのがポイントだと思います。1枚で、超要約版みたいなものですね。だからどう書くか工夫が要ると思いますが、それを作っているような方面で配布をするということを、年に1回でもやっていかれるというのは、意味があるんじゃないかなと思います。

(広瀬委員長)

ぜひ検討してみてください。

(事務局)

はい。

(服部委員)

私は、そういうチラシで枚数が何枚作れるか分からないんですが、例えばこれだったら各市町さんが平等にやれるわけじゃないですか。例えばチラシを撒くのに、例えば県のほうでそういうことを考えていますよ、各市町さん、参加していただけますかと声を掛けるとしますよね。みんなから返事が返ってくるとしますね。やっていいですよ。条件がそ

れで整うと。そうすると、どれくらい予算がかかるか分かりませんが、各市町さんは戸数が分かっていますから、そうすると戸別にちゃんと1軒に1枚ずつ撒いてくださいねと。それで配布率どうですか、周知率はどうですかというのを、いわゆる競争させるのがいいのかどうか分かりませんが、そういうイベントにつなげていくと。

それから結果が具体的に表になって出てくるかなと。それで周知のアンケートなんかも取れば、そうすると各市町ごとにどういう傾向があるか、それで周知度はどうか、どこに差があるのかという、そういうこともできるんじゃないかなと思うんですけどね。それがいいのかどうかは分かりませんが、市町さんに迷惑になるのかも分かりませんが、やり方としてはそういうやり方もあるんじゃないかなと思いました。

(広瀬委員長)

ありがとうございました。

(高屋副委員長)

私、反省いたします。結局、交流会とかさせていただいても、自分たちのことは言いますが、県のことは言わないんです。何かいただいた時には「いただきました」とは言うんですが、こういうふうな企画でこれはいたしましたということは、やはり言うべきであって、これからこの交流会とかそういう時には、この『ごみゼロ推進プラン』に基づいてやっていますということをきちり書いていただくと言うか、それがないと多分住民さんにとっては、何でしているのか、これは仮に鳥羽市にしても伊勢市にしても、これは鳥羽市でしているんやということになっていって、県がこの事業をバックアップしているということは多分分かってないと思うので、この間の伊勢市のイベントでやったのも一緒のことだと思しますので、そういうことを遠慮せずにここに書いてくださいと言っていいと思いますので。例え10人20人の集まりでも、それは言って、書いてもらって、そこから広がりを持って行ったほうがいいかも知れません。私も反省します。

(広瀬委員長)

お話がもう平成20年度の取り組みに入ってしまったけれども、それに係ってきますから、また何かありましたらご意見をいただくことにして、次の平成20年度の取り組みについて説明をお願いします。

(事務局)

資料5、資料6 説明

(広瀬委員長)

それでは資料5、6について、ご意見等ございましたら。

(日高氏 - 村田委員代理 - )

20年度計画の中の資料5の事業者セミナー、私は事業者ですのでお聞きするんですが、どんなセミナーをやっていたらいいのでしょうか。

(事務局)

具体的には、まだこれから考えさせていただく予定でございますが、今年度で言いますと、先ほど資料3の中でご紹介をさせていただきましたが、資料3の1ページ、金沢市ので事業系のごみの削減の取り組みを行っておられる状況がございまして、そのご紹介をということで、今年度は金沢大学の佐無田先生に来ていただきました。

それから、もう一つはレジ袋の有料化の事例発表をしておりますが、これは事業者のお力添えがないとできなかった事業でございますので、ご紹介をさせていただいて、事業者の関心の高いであろうと思われるようなテーマを設定してやりたいと思っておりますので、もしテーマでご提案があれば、ぜひいただければと思っております。

(日高氏 - 村田委員代理 - )

できれば食品リサイクル法に沿った内容で行っていただければ。事業系だけで取り組んでいても、住民参加も必要になってくると思いますので、そこらへんも考えていただいて、例えばコンビニでたくさん物が出てきて、商品は売れるんだけど、日付の問題でもうダメだ、廃棄になってしまうと。誰も買わない、で、捨てなければならないという、今現在そんなような状態で回っていると。そこらへんのところも含めて考えていただいて、無駄が出ないという、勿論ごみが出ない、出さないのが一番いいんですが、出る以上はそれを取り切らないといけないので、そういうことをちょっとお願いしたいと思います。

(広瀬委員長)

ぜひそんな内容をお願いいたします。

(羽根委員)

DVDができるということでワクワクしていたんですが、やはり先ほどからもチラシ等の話でどのように認知していくかというところで、認知も大事なんですが、やはりごみゼロに向けてどうしていくかということ、最善を尽くして考えていかないといいかなと思うと、やはり子どもの教育、金谷先生がおっしゃったような、子どもの教育というのはとても大事になってくると思うんですね。小学校4年生に環境学習がきちっと制度化されてやってきて、そのチャンスを逃さないような仕組みづくりをしないと、5年生、6年

生になってもっと学習範囲が広がってきますと、ちょっとたくさん出てくると横を向くような形になってきますので、やはりそういう時期というのはとても大事だと思います。

そして、子どもが親を動かすというような形を取っていくということも、一つのごみゼロに向けての対策だと思っております。それについては例えば学校であれ、どんな施設であれ、DVD映像で見て、楽しく学習ができるという形はすごくいいなと思います。なかなかできないので、思ってもそういうことは難しいので、県のほうで考えていただくとありがたいと思っています。

それから、あとになりましたが、資料4の参考資料のほうを見ていますと、まるで自分の答えが書いてあるような結果が出ているなと思うんですね。大事だと思う、大事だと思うんだけど、やはりごみになるものを買ってしまうんだという、そういうところですね。で、ごみが回りにいっぱいあって困ると。全部これ、本当にそのとおりだと思うんです。でも、何とかしていかないといけないという人は90%ぐらいいっちゃって、みんなそういう思いでいるんですね。で、このところを本当にじゃあどうしていったらいいのかというのが、ちょっと皆さん、諦めの境地になっているのかなという結果も逆に出てきている。もうリサイクルしても仕方がないとか、いろんな情報もありますね。反対の情報も出てきましたし、いろんな対立した意見が出てくると、「あ、そうなのか、じゃ、しょうがないのか」とかいう気持ちで出てきているんじゃないかなと思って、この資料4の参考資料を非常に興味深く私は見ていたんです。

このところを、先ほど日高さんのおっしゃったような、本当にごみは減らさないといけないんだけど、「もれなく付いてくるこのごみをどうするんだ」みたいな、消費者にとってはそのところなんですね。減らさなきゃいけないけれども、しょうがない、買ってしまうという現実があるわけなので、そういう気持ちでこの資料を見せていただきました。

(広瀬委員長)

はい、ありがとうございます。他にいかがですか。

(立田委員)

地域のごみゼロ交流会というのが開かれているんですね。この交流会の持ち方をもうちょっと考えたほうがいいかなと思います。私は伊賀の地域団体に関わらせてもらっている中でちょっと感じているんですね。

先ほどチラシの作り方のお話もあった中で、例えばパーセンテージを上げる目標がありますよね。そのうちの指標名として大きなものが三つあるわけなんですけど、三つを同時に

進めていくというのなかなか難しい部分もあるかなと思いますが、これの一つだけを特化して今年は進めるということをやったら、ここのパーセンテージだけでもガッと上がるかも知れないのにとったりしますので、そのチラシを作るにおいても、いっぱい書けないので、キャラクターを使って、三つあるけれども、今年はどれかに重きを置いて進めるということにすれば、例えば数値が一つだけでも上がるのじゃないかと思っています。

その地域交流会のことも、今言われたように子どもの教育もすごく大事ですから、もうちょっと学校とのタイアップとかを考えたら、できないこともないというふうにも、ちょっと思いました。だから、開く前にもう少し準備が必要かなと、ちょっと今までのことを思うと感じています。

(羽根委員)

そのDVDも、私DVDにこだわっているんですが、やはり子ども向けと中学校ぐらいになってもう一回再確認する、それがイコール、大人にもつながっていくという、そういう両方が要るような気がします。中学生ぐらいになると、もうちょっと色々なことも、もっと大きな科学的な問題とか、そういうものが出てきますので、そこらへんもちょっと視点に置いて、何かいいものができたらと思います。

何も、どんなことをされるのか分からないまま、意見だけ言っていますので。

(金谷委員)

DVDの件は、基本的に賛成なんですね。またある程度ターゲットを決めてもいいと思うんですよ。一つは子どもとか、事業者向けとか、一般市民向けとか、やっぱり分けて作ったほうがいいと思うんですよ。三つ同時に作るのが難しければ今年はこれとか。

その場合、もし子ども向けに作られるとすると、この時間にこれを使ってくれという指示はできないわけで、ただもし使われるのであれば、例えばこれを使って授業の一コマに使うとか、できればその時に一緒にチラシも出して、宿題として親御さんと話してもらうようにすれば認知度も上がります。例えばそのへんで4年生でも総合学習みたいなものがありますよね。ですから総合学習の一コマで使うとすれば、例えばこんな組み合わせがある、例えば清掃センターに行くのは社会科で行くのか総合学習で行くのか分かりませんが、そうすると、何か現場の先生がそれを使ってやりたくなるようなプランを、ちょっと20年度の中で相談をして、DVDだけを作るとかチラシだけを作るんじゃないかと、その使い方と言いますが、それをある程度話し合っていくと。

そうすると自主的にというか、おそらく県のほうの指示で使うということにはならない

ですよね、小学校の場合は。ですから、あくまでもこういうふうなネタは作りますよと。そうすれば、あとは現場でそれを使う、使ってみようかと思うかどうかなんですよね。ですから、それは少しそういうチラシとかDVDとともに、いろいろそれらを使った授業と言うか、そういう大枠みたいなものがあると、ハードルが下がるんじゃないでしょうか。

その時に、県のほうとしては、そういう認知率を上げるという目標を考えると、DVD単体だけじゃなくて、チラシも用意しておくとか、子どもが親と話し合える機会をうまく仕掛けるとか、そういうふうなものまで話し合っておいたほうが効果的かなと思います。

(広瀬委員長)

小学校の現場で、4年生で焼却場の見学をしていますし、総合学習ではいつも環境の問題に取り組んでおられるので、NPOも教育委員会も、そういう教材を作ったりされていますから、この機会にDVDを作るのであれば、教育委員会とかとも、これまであまり接触がなかったですから、少し考えたらいいかも知れませんね。今までやってうまくいったというのは、実は何かやるという、ただ見るだけじゃなくて、見たあとに何かやるというところがあると長続きする、効果があるというのは分かっていますから、レジ袋の有料化の話もありますし、マイバッグを作るとか、キャラクターがすぐ印字できるような工夫をすとか、そのへんは特にNPOの方もおられますから、モデル事業でぜひそういうことを提案していただければいいんじゃないかなと思いますけど、いかがでしょうか。NPOの方もおられますが。

(高屋副委員長)

確かに、体験を入れるということはいいと思います。で、学校の先生にしても、清掃センターに行っても、何かが体験できて、それと一緒に持ち帰ってくる、体験してそれを体で覚えて持ち帰ってくるやり方は楽しみながらできるので、それはいいと思います。

それこそ、リサイクルを考えながら実際に体験するというのは、一つの条件になると思います。

(広瀬委員長)

ある小学校で4年生の授業だったんですが、一つおもしろかったのは、リサイクル用のごみ箱を作ったんですが、ただ作るだけじゃなくて、1、2年生のクラスに置いてもらうというのをやったら、その時だけものすごくその4年生の子どもたちの行動が変わって、他の人たちに、下級生に勧めたら、その手前やらざるを得ないと子どもは思うみたいですね。そのあたりは、よくやっておられる方がたくさんおられますので、ぜひ知恵を出して

いただいて、そのあたりを含めて、20年度は考えていただきたいと思います。

20年度、今いくつかアイデアが出ましたが、他にありませんでしょうか。

(服部委員)

先ほどに引き続きの話なんですけど、子どもさんの教育の部分で、今、1時間のスパンの中で10分ぐらい休憩があるのか分からないんですけど、私たちも実際に車の免許を受けに行くと、授業の時間というのはある程度、長いと集中できないし、何を言っているのか理解ができないことが結構ある。それで、そこのところの中で、何に主眼を置いてものを作るかということになると思いますが、子どもさんでしたらどれに主眼を置くのかとか、例えばご家庭の奥さんでしたら、男性も勿論そういう分別の行動もごみゼロもしないといけませんけど、一番効果的なのは主婦の方ですよ。奥さんがご主人と協力しながらやると、家庭内の会話も増えて、いい事業になっていくのかなということに思うんですけど、いわゆる限られた時間の中で、先ほどおっしゃってみたいみたいにカリキュラムみたいなものとかガイドラインみたいなものが要るのか、私は分かりませんが、ぜひともそういうソフト面の運用面で、現場に即するような形をイメージしていただいた上で、だから何分のDVDを作るんだぞという形が非常にいいのかなと。

それでまた今のパソコンでも、いわゆるネット上でも、今、キャラクターを動かしながら啓発活動をしていただいていますよね。その部分も含めて主婦の方向けがあってもいいし、子どもさん向けがあってもいいし、いわゆるご主人向けがあってもいいし、そういう部分をリンクすると経費も削減できて、今月とか今年はこののをご主人向けにしようとか、来年はホームページをアップする段階で子どもさん向けに変えようとか、そういうやり方もありますので、いわゆる与えられた予算の中でいかに皆さんに興味を持ってもらえるか、何を主眼としてやるのか、どうすれば効果が高いんだということを何年か継続していかないとやはり動いていかないんじゃないかなと。単年度でしっかりやっていく、一つのことを決めてやっていくというのは、これもぜひとも必要なんですけど、底流に流れているのは、やはり個々の皆さんにどこまで周知するのかということだと思いますので。

例えば、4年生の方がごみの教育を受けられるのであれば、お子さんがおみえになるところでしたら、4年生になった時点でそれが家庭に入りますよね。でも、4年生の方がおみえにならないところについては、それは家庭に入っていないわけですから、ですからその部分の周知の仕方も含めて、どういうふうなことがいいのかなと考えるのですが。

以前、塗り絵のコンクールみたいなものの中で覚えがあるんですけど、最近よくあるのは

雑誌に交換クーポンが付いているとか、よくありますよね。私、物で釣るのはいいとは思いませんが、何らかの形で、そういう番号をふるのがいいのか、クーポンがいいのかどうか、私は分かりませんが、どれくらい周知したかというのを、そういった予算が許せば、そのクーポンと引き換えにすると。このエリアで何軒ぐらいに広まったな、このエリアで何軒ぐらいに広まったというのが、数字として自動的に出てくるような、そういう事業ができるとおもしろいんじゃないかなと。お金のこともありますし、時間のこともありますし、どのタイミングがいいのか私は分かりませんが、本当に事業をやっていく中で結果が分かって、それでその周知度が集計できると、そこへリンクができるような、そういうことができればおもしろいんじゃないかなというふうには思います。

(金谷委員)

一つのDVDの中に、例えば小学生の話で言えば、長い時間ではできないでしょうから、例えばそれは15分ぐらいのものであって、それを見ることそのものが目的じゃないので、そうすると1本のDVDの中には通常2時間ぐらい入りますよね。例えば15分単位ぐらいのものをいくつか作ればいいと思うんですよ。例えば事業者向けでも、当然事業所は業種によって違うわけですから、食品関係のいろんな事業所とかいろいろありますよね。

あとは一般の方を対象にされているようなものも、それは基本的な情報と、それからあと県のいろんな取り組みを映像で出したら全然印象が違いますよね。そういうふうなものとかをこの機会にあちこちから撮ってこられて、それを一つにまとめてしまう。で、見る側は必要な部分だけ使えばいいわけですから。

あとは、それをごみゼロのホームページのほうで必要であればどんどんダウンロードする形で置いておけばいいと思うんですよ。ですから、この機会に、それほど手をかけないでできるものとして、DVD一つの中にいろんなものがある形で、一つのことを詳しくと言うより、そういうイメージをされたほうがいいのではないかと。必要なところを使ってもらおうという形。その中には、15分ばかり『ごみゼロプラン』そのものの紹介部分があってもいいと思います。

(事務局)

予算の範囲内でできる限りやらせていただきたいと思います。

(広瀬委員長)

他にございませんでしょうか。

平成20年度の事業の点でまた何かありましたら、事務局に出していただければ。

今日は1時から3時ということなんですが、一応これですべての議事は終了ですね。その他は特にありませんか。

(事務局)

特にはございません。

(広瀬委員長)

それでは、第8回ごみゼロプラン推進委員会はこれで終わりたいと思います。

事務局にお返しします。

(事務局)

広瀬委員長、長時間にわたり、ありがとうございました。

それから、他の委員の皆様方からもいろいろご意見をいただきましたので、来年度なるべく施策に反映させていただいて、皆様の意に出来るだけ沿うような形で進めさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本当に今日は長時間にわたりまして有意義なご議論をいただきまして、ありがとうございました。

(終)